

MARK II Di866 PROFESSIONAL

ソニー用

多機能デジタルTTLストロボ



取扱説明書

ニッシン製品をお買い上げいただき
誠にありがとうございます。

ご使用にあたっては、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いいただきますようお願いいたします。また、カメラの操作・機能に関しましては、ご使用になるカメラの取扱説明書をご参照ください。

ニッシン Di866 MARK II ソニー用は、ソニー製デジタル一眼レフカメラ用の最新のデジタルTTL方式に対応するデジタルTTL用ストロボです。また、ホットシューやシンク口端子を備えたカメラに対しては、シンク口同調させることができます。

Di866 MARK II ソニー用は、カラーアイコンにより機能が分かりやすいカラー液晶を搭載し、初めての方にも操作が簡単です。

注意

Di866 MARK II ソニー用は、ソニーデジタル一眼レフカメラのADI/P-TTL 調光方式に対応しております。その他のTTL方式のカメラに取り付けた場合は、TTL(自動調光)が正常に機能しません。

1

Di866 MARK IIの特徴 ①：回転式カラー液晶



1. カメラを縦や横に構えると、その向きに応じてカラー液晶画面が自動的に回転します。
2. 6つのカラーアイコンによる分かりやすいメニュー画面。

Di866 MARK IIの特徴 ②：簡単操作

基本的なストロボ撮影は、Di866 MARK IIをカメラに装着するだけでOKです。内蔵ストロボをお使いになるような感覚でご使用になります。

Di866 MARK IIの特徴 ③：多機能

Di866 MARK IIは、カメラから離して発光できるワイヤレスTTL機能や、高速シャッターに対応するハイスピードシンク口機能、マルチ発光機能や外部調光機能など、豊富な機能を装備しており、さまざまな撮影に対応できます。

対応カメラ

最新の対応カメラ表は、<http://www.nissin-japan.com>でご確認できます。

2

安全上のご注意 ■必ずお守りください。

ご使用になる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止する為、お守り頂くことの説明をしていますよくお読みになり取扱いにご注意ください。

警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずお守りください。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。必ずお守りください。

警告

- 本機は高電圧の部品を使用していますので、絶対に分解しないでください。修理の場合は、弊社サービスステーションかまたは、ご購入されたお店にお持ちください。
- 落としたり、破損したりした場合、または機器の中に物体が落ち込んだ場合には、絶対に露出部分に触れないでください。
- 人の目の前(特に乳幼児)に近づけて発光しないでください。目の近くで発光させると、視力傷害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する場合は1m以上離れてください。
- コップ、化粧品、薬品の入った容器のそばで使用しないでください。こぼれたり、機器の中に入った場合は、火災、感電または傷害の原因になります。
- 本機は防水ではないので、雨がかかる場所や、湿度の高い場所に置かないでください。
- 自動車など40°Cを超えるような高温になる場所に放置しないでください。
- 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所で使用しないでください。

注意

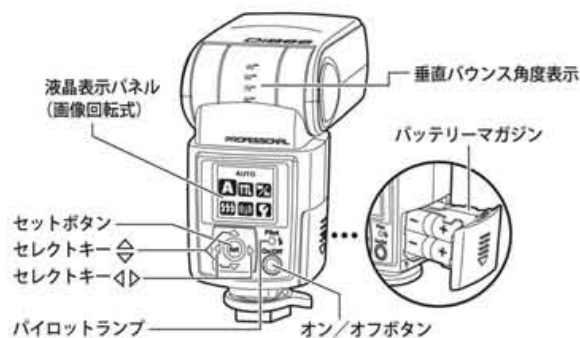
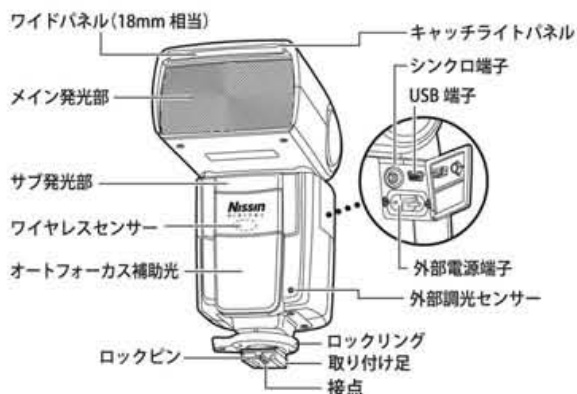
- 電池を高熱にさらさないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 不安定な場所で本機を使用しないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりすることにより怪我の原因となる場合があります。
- ストロボ発光部の発熱や劣化を防止するため、連続発光は20回までに抑えてください。また、20回連続発光したあとは、10分以上休止してください。

その他の注意

- ベンジンやシンナー、アルコールなどで本機を拭かないでください。変色や変形の原因となります。汚れのひどいときは柔らかい布で乾拭きしてください。
- 本機を長期間使用しない場合は、電池を抜いて保管してください。

3

各部の名称



付属品



4

メニュー画面について

Di866 MARK IIの基本的な発光モードと機能について



- A** … フルオートモード
- TTL** … TTL自動調光モード
- M/Av** … 手動設定モード
- Multi** … マルチ発光モード
- Wireless** … ワイヤレスTTLモード
- Custom** … カスタム設定モード

- A** **フルオートモード** …………… P.10
発光量が自動的に調節されます。初心者の方にお勧めのモードです。
- TTL** **TTL自動調光モード** …………… P.12
発光量が自動的に調節されます。ストロボによる微調節ができ、サブ発光機能もご使用になれます。
- M/Av** **手動設定モード** …………… P.16
マニュアルモード(M) — 発光量を手動で調節できます。
外部調光モード(Av) — カメラとストロボの絞りを合わせると、発光量が自動的に調節されます。
- Multi** **マルチ発光モード** …………… P.22
ストロボの連続発光が行えます。発光間隔と発光回数を変更することができます。
- Wireless** **ワイヤレスTTLモード** …………… P.24
ワイヤレスでTTL制御できるモードです。本機をマスターやリモートに設定することができます。
- Custom** **カスタム設定モード** …………… P.29
お客様のお好みで本機をカスタマイズすることができます。

5

より進んだ設定について

ストロボでセットする機能 … モードによっては、より進んだ設定を可能にするアドバンス機能を選択できます。

アドバンス機能	発光モード
サブ発光機能 (P.14)	TTLモード 手動設定モード
マニュアルズーム (P.15)	TTLモード 手動設定モード
ハイスピードシンクロ (P.15)	TTLモード
スレープ機能 (P.19)	手動設定モード
絞り設定	手動設定モード*1
ISO設定	手動設定モード*1

*1. Di866 MARK II をスレープで使用する時やシンクロ同調 (TTLでない) で使用する時に必要な設定です。

カメラによってセットされる機能 … カメラによって自動的に制御される機能があります。

- REAR** **後幕シンクロ機能** …………… P.31
後幕シンクロにセットすると、シャッター幕が閉じられる直前にストロボ発光を行います。
- +** **オートフラッシュブラケットティング** …………… P.31
発光量の補正値を変えながら、連続して撮影を行うことができる機能です。
- SLOW** **スローシンクロ機能** …………… P.31
背景が暗い場所で、背景の露出に合わせてスローシャッタースピードでストロボを発光させることができます。

6

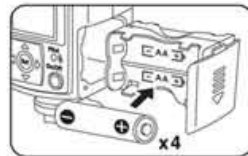
基本操作

電池の挿入

使用できる電池：ニッケル水素電池、アルカリ電池、リチウム電池

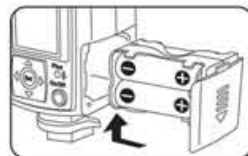


1. バッテリーマガジンを取り外して、単3電池4本を図のように挿入します。



2. バッテリー室は、同じ方向に電池を挿入できますので、暗い場所でも電池の入れ替えが楽にできます。

3. 電池室の+/-のマークに従って、電池を挿入してください。



4. バッテリーマガジンを本体に戻してください。

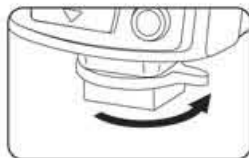
リサイクルタイムが20秒以上になる場合は、新しい乾電池に交換して下さい。充電電池の場合は充電してください。

注意

電池は、同じブランドで同じタイプの新しい電池を使用してください。同時に交換することをお勧めします。また、充電電池の場合は、4本とも同時に充電した電池を使用してください。

7

Di866 MARK II をカメラに装着する

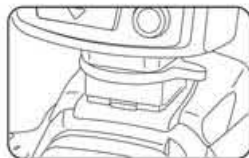


1. Di866 MARK II とカメラの電源をあらかじめOFFしておきます。

2. Di866 MARK II のロックリングのレバーを
図の方向に回して緩めます。



3. Di866 MARK II の取り付け足をカメラのホットシューに差し込みます。



4. レバーを逆方向に回して、締めつけます。

5. ロックピンが突き出て、取り付け足がホットシューに固定されます。

Di866 MARK II をカメラから取り外す

- ロックリングを緩め、Di866 MARK II の取り付け足をカメラのホットシューから外します。ロックピンがホットシューに引っかからないように、ロックリングを十分に緩めるようにしてください。

電源を入れる

- 「オン/オフボタン」を押します。Aモードの画面が表示され、セットされます。
- パイロットランプが赤色に点滅し、充電を開始します。
- 数秒後にパイロットランプが緑色に点灯します。
- 操作を最後に行った後、液晶画面は自動的に30秒後に消えます。
- テスト発光を行いたいときは、パイロットランプを押してください。
- 手動でストロボをOFFにするには、「オン/オフボタン」を2秒間押してください。



8

Di866 MARK II の省電力機能

1. スタンバイモード

本機は、カメラが操作されなくなってから、またはDi866 MARK II が最後に操作が行われてから約30秒後に自動的にスタンバイモードに入ります。Di866 MARK II がスタンバイモードの間は、液晶画面は消えたままになり、スタンバイモードであることを示すために、緑のパイロットランプが2秒ごとに点滅します。液晶画面を復帰させるには、カメラのシャッターボタンを半押しするか、本機のボタンのどれかを押してください。

2. ディスプレイ設定

本機は、より電力を節約するために、カスタム設定によりディスプレイ設定をOFFにして表示時間を短くすることができます。この場合は、無操作状態から約8秒後にスタンバイモードに入ります。ディスプレイ設定がOFFの時にスタンバイモードに入ると、カメラのシャッターボタンを押しても液晶画面は復帰しません。液晶画面を復帰させるには、本機のボタンのどれかを押してください。

3. オートオフモード

Di866 MARK II が30分以上操作されない場合、本機の電源がオフになります。Di866 MARK II の電源をオンにするためには、もう一度「オン/オフボタン」を押して再起動してください。

Di866 MARK II がオフカメラの設定(ワイヤレスTTLモードのリモート設定やマニュアルモードや外部調光モードのスレープ設定)でご使用になる時は、オートオフモードを60分に設定変更されることをお勧めします。オートオフの時間設定は、P.32のカスタム設定をご覧ください。

9

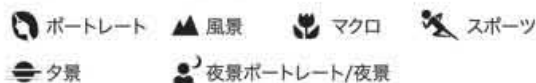
モードと機能の設定

A フルオートモード

本モードでご使用になれるカメラのモード：

[AUTO] フルオート、[P] プログラム、[S] シャッタースピード優先モード、

[A] 絞り優先モード、[M] マニュアル



上記のカメラのモードに設定すると、ADI/P-TTL自動調光システムをご利用いただくことができます。

- Di866 MARK II をカメラのホットシューに装着し、カメラと本機の電源をオンにします。
- 液晶画面は自動的にAとなり(工場出荷時の状態)、カメラと通信を開始します。
- この状態でカメラのオン/オフボタンを押すとモードがロックされます。(もう一度押すと「オン/オフボタン」を押すとロックが解除されます。)
- 設定は以上です。
- パイロットランプが緑に変わりましたら、カメラのシャッターを半押しし、被写体にピントを合わせてください。
- カメラのファインダー内にシャッタースピード、絞り、フラッシュマーク が表示されましたら、シャッターボタンを押してください。Di866 MARK II が発光します。
- 発光量は、カメラによって制御されます。レンズの焦点距離を変更すると、画角に合わせてDi866 MARK II の照射角(発光する角度)が自動的に最適な角度に調節されます。照射角は本機の液晶画面に表示されます。



10

- Di866 MARK II のオートズームは、35mmフィルムフォーマット換算で、24mmから105mm以上の焦点距離をカバーします。

カメラのモードをセットし、焦点距離を選び、カメラに Di866 を装着して撮影を行ってください。Di866 MARK II はクリエイティブで生き生きとした写真を撮るための助けとなるでしょう。フルオートモードでは、ほとんどの操作をカメラ側で行うことができます。フルオートモードは、カメラの操作だけで済みますので、気軽に撮影を行うことができる初心者向けのモードです。

モード	シャッタースピード	絞り	カメラの制御
[AUTO]	自動	自動	自動
[P]	自動	自動	自動
[S]	手動	自動	シャッタースピードが選べます
[A]	自動	手動	絞り値が選べます
[M]	手動	手動	シャッタースピードと絞りが選べます

11



TTLモード(調光補正機能付き)

最新のデジタル TTL 調光システムでは、最適な露出のために自動的にストロボの発光レベルを制御しています。被写体と背景のバランスを取るために、調光補正機能により、発光量を強めたり弱めたりすることもできます。

本機の TTL モードでは、ストロボ操作により簡単に調光補正を行うことができます。





本モードでご使用になれるカメラのモード：

[AUTO] フルオート、[P] プログラム、[S] シャッタースピード優先モード、

[A] 絞り優先モード、[M] マニュアル

その他の、イメージモード(カメラによって異なります。)

上記のカメラのモードに設定すると、ADI/P-TTL自動調光システムをご利用いただくことができます。

- Di866 MARK II をカメラのホットシューに装着し、カメラと本機の電源をオンにします。
- 液晶画面に現在設定されているモードの画面が表示されます。
- Set ボタン  を押すと6つのアイコンが表示されるメニュー画面に切り替わります。
- セレクトキー  により「TTL」を選び、Set ボタン  を押します。(何も選択されない場合は、約8秒後に自動的に前に選択されていたモードの画面に戻ります。)
- TTL 調光補正を行う場合は、セレクトキー  を押します。-3.0EV ~ +3.0EV まで 1/3EV ステップごとに値を選択できます。



12

- 補正值をロックする場合は、「オン/オフボタン」を押してください。(もう一度「オン/オフボタン」を押すとロックが解除されます。)
- 調光補正が必要な場合は、背景とのバランスを見ながら、被写体の露出を調整してください。
- カメラによっては、カメラ側から調光補正を行うことができます。(詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。)また、ストロボ側でも、カメラ側でも調光補正がセットされている場合は、両方の補正值が合算されます。
- 本機の液晶画面には、本機でセットした調光補正值のみが表示されます。(カメラ側の調光補正值は反映されません。)



カメラのモードをセットし、焦点距離を選び、カメラに Di866 MARK II を装着して撮影を行ってください。
撮影状況によっては、調光補正を行うとよりよい撮影が可能です。
TTL モードは、ほとんどの操作をカメラ側で行うことができますし、ストロボ側で調光補正もできる便利なモードです。TTL モードは、ストロボ操作に慣れた方にとって使いやすいモードです。





13

TTLモードのアドバンス設定

アドバンス設定は、よりクリエイティブな撮影を楽しむことができるモードです。アドバンス設定では以下のような機能をご利用いただけます。

サブ発光機能

Di866 MARK II はメイン発光部に加え、第2の小さな発光部である「サブ発光部」を備えています。このサブ発光部はメイン発光部が回転している時(パウンス)のみ機能します。サブ発光により、パウンス発光の時、被写体に下方向にできる影を和らげることができます。

- 液晶画面に「TTLモード」の画面が表示されている状態で、Setボタン  を2秒間押すと、「TTL ADVANCE」の画面に切り替わります。
- セレクトキー  によりSub. Flashを選び、セレクトキー  によりOnを選択し、Setボタン  を押します。(何も選択されない場合は約8秒後にもとのTTLモードの画面に戻ります。)
- サブ発光は、撮影状況に合わせて、6つの光量レベルを選ぶことができます。

サブ発光部の光量	ガイドナンバー (ISO100)
1/1 (Full power)	12
1/2	8.5
1/4	6
1/8	4
1/16	3
1/32	2
1/64	1.5
1/128	1




- サブ発光機能はメイン発光部がパウンス状態の時のみ有効です。サブ発光機能が発光可能な状態の時は、TTL モードの画面に「SUB」が表示されます。メイン発光を正面の位置へ戻すと「SUB」の表示が消え、サブ発光機能が解除されます。

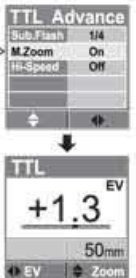


14

マニュアルズーム設定






Di866 MARK II の照射角は手動で設定することもできます。
Di866 MARK II ソニー用をソニー以外のカメラに使用する場合や、フィルムカメラに使用の場合は、オートズームが動きません。このような場合には、マニュアルズーム設定を行います。
画角に対して照射角を任意に変更するような場合にも、マニュアルズーム設定を行うことができます。

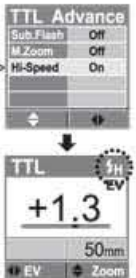
- TTLモードの画面にして、Setボタン  を2秒間押すとTTL ADVANCEの画面が表示されます。
- セレクトキー  を押して、M.Zoomを選択し、続けてセレクトキー  を押してM.ZoomをOnにします。Setボタン  を押すかまたは、なにも操作しなければ8秒後に、設定が保存され、TTLモードの画面に戻ります。
- セレクトキー  を押して、24mmから105mmまで任意でズーム位置をお選び頂けます。



ハイスピードシンクロ機能

ハイスピードシンクロ機能をONにすると、ストロボ同調スピードより高速なシャッタースピードでストロボ発光ができるようになります。

- TTLモードの画面にして、Setボタン  を2秒間押すとTTL ADVANCEの画面が表示されます。
- セレクトキー  を押して、Hi-Speedを選択し、続けてセレクトキー  を押してOn(ハイスピードシンクロ)を選択し、Setボタン  を押します。(何も選択されない場合は、8秒後にもとのTTLモードの画面に戻ります。)
- ハイスピードシンクロ機能が有効になっていることを示す  がTTLモード画面の右上に表示されます。このマークが表示されていない時は、ノーマル(先幕)シンクロに設定されています。



15



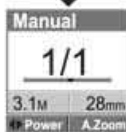
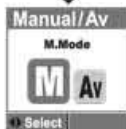
マニュアルモード(手動設定モード)

本モードでご使用になれるカメラのモード: [M]または[A]

本機の発光量は手動で調節することが可能です。撮影者は、カメラにセットした絞り値に対して、最適な発光量を手動で本機にセットすることができます。発光量は、フル発光から 1/128 発光まで 1/3 絞りごとに 22 段階の中から選ぶことができます。

対応するソニーデジタル一眼レフカメラに装着した場合

- カメラのモードを[M]または[A]にセットします。
- Di866 MARK II のメニュー画面からセレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により「M/Av」を選んでSetボタン Set を押します。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により「M」を選びSetボタン Set を押します。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により好みの発光量を選びます。
- カメラから自動的に送信されたISO感度および絞り値の情報もとに、Mモードの画面上に最適な露出を得るための撮影(発光)距離が表示されます。



ソニー以外のカメラに使用する場合や、フィルムカメラに使用する場合

(マニュアルモードのアドバンス設定により行います。)

ソニー以外のカメラに使用する場合や、フィルムカメラに使用する場合には、カメラにセットした ISO 感度と絞り値と同じ値を本機にセットしなければ、本機の液晶画面上に撮影距離が表示されません。

- マニュアルモードの画面でSetボタン Set を2秒間押すと「マニュアルモードのアドバンス設定」に切り替わります。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により、ISO (ISO感度)を選び、続けてセレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により、カメラにセットされているISO感度と同じ値を選んでください。



- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により、F.Stop(絞り)を選び、続けてセレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により、カメラにセットされている絞り値と同じ値を選んでください。
- Setボタンを押すかまたは、何もしなければ8秒後に、設定が保存され、Mモードの画面に戻ります。
- 「オン/オフスイッチ」を押すと設定がロックされます。(もう一度押すとロックが解除されます。)



マニュアルモードのアドバンス設定

マニュアルモードではアドバンス設定を行うことができます。前述したISOとF.Stopの設定以外に、以下のアドバンス機能が利用できます。

サブ発光機能 ————— P.14をご参照ください。

マニュアルズーム設定 ————— P.15をご参照ください。

スレーブ発光機能

Di866 MARK II は、汎用のスレーブ発光機能を備えています。本機能をお使いになると、Di866をカメラから離して、被写体にさまざまな方向からライティングを行うことができます。本機のスレーブ発光機能にはSDとSFの2つの発光モードがあり、マスター側(発光元のストロボ)の発光方式に従って、お選びいただけます。

SD: このモードをセットするとDi866 MARK II は、多くのデジタルカメラ用ストロボで採用されている方式であるプリ発光方式のマスターストロボに同調します。マスターストロボの発光モードはADI/P-TTL にセットしてください。

SF: このモードをセットするとDi866 MARK II は、多くのフィルムカメラ用ストロボやスタジオ用大型ストロボで採用されている単発光のマスターストロボに同調します。デジタルカメラ用ストロボで、マニュアル発光モードに設定した場合は、Di866 MARK II をこのモードにセットしてください。

- Di866 MARK II のスレーブモードを設定するには、Mモードの画面上でSetボタン Set を2秒間押し、マニュアルモードのアドバンス画面に切り替えます。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ を押して、Slaveを選び、続けてセレクトキー $\triangleleft \triangleright$ によりSDまたはSFを選びます。



●スレーブ発光機能の設定方法

【マスターストロボの設定】

マスター側となるストロボを設定します。カメラに搭載されている外付けストロボの電源を入れるかまたは、カメラ内蔵ストロボをポップアップして起動してください。

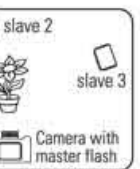
【スレーブストロボ(Di866 MARK II)の設定】

スレーブストロボは複数台を設置することができます。Di866 MARK II のMモードのアドバンス設定画面からSlaveのSDまたはSFを選択します。マスターストロボの発光方式に合わせて選んでください。本機がスレーブモードがセットされると、スレーブ状態であることを示すために、ストロボのフロント部分のAF補助光が2秒ごとに発光します。



- スレーブストロボを設置する時は、付属の三脚ねじ穴付きミニスタンドをご使用できます。三脚に固定する時にお使いください。

- マスターストロボの発光を受光するスレーブセンサーは、ストロボのフロントの赤パネル内に格納されています。スレーブストロボが同調しない場合は、バウンス機構を利用してマスターの発光を受けやすいように角度を調節してください。



ワイヤレスセンサー

①注意

本機を他社のアクセサリシューに固定する時は、金属製のものをご使用にならないでください。シューコンタクトがショートして、本機にダメージを与える場合があります。

Di866 MARK II のスレーブ機能を選択した場合は、ズーム設定が自動的にマニュアルに切り替わり、照射角24mmになります。ズーム位置は手動設定できますので、好みの照射角に切り替えてご使用ください。スレーブ機能をお使いになる時は、カスタム設定モードにより本機のオートオフ機能を60min.にしてご使用になることをお勧めします。



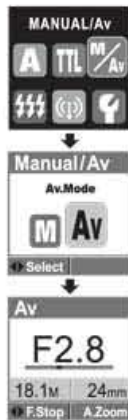
Av 外部調光モード(手動)設定モード)

本モードでご使用になれるカメラのモード: [M]または[A]

Di866 MARK II は、本機に搭載された内蔵センサーにより発光量を自動的に調節することができます。カメラにセットした絞り値と同じ値を Di866 MARK II にセットすると、最適な露出のための自動調光を調光範囲内において行います。

対応するソニーデジタル一眼レフカメラに装着した場合

- カメラのモードを[M]または[A]にセットします。
- Di866 MARK II のメニュー画面からセレクトキー◀▶⇄により「M/Av」を選んでSetボタン●を押します。
- セレクトキー◀▶により「Av」を選びSetボタン●を押します。
- セレクトキー◀▶により好みのF値(絞り)を選びます。
- 「オン/オフスイッチ」を押すと設定がロックされます。(もう一度押すとロックが解除されます。)
- Di866 MARK II でセットしたF値と同じ値をカメラにセットしてください。
- Di866 MARK II の液晶画面上には、選んだF値と調光距離範囲と焦点距離が表示されます。
- 調光距離範囲内において、最適な露出のため、発光量は自動的に制御されます。適正な制御をおこなうためには、少なくとも被写体から1m以上離れて撮影してください。
- 焦点距離やF値を変えると、液晶画面に表示されている撮影(発光)距離が変わります。
- Di866 MARK II の外部調光モードは、Di866 MARK II のF値とカメラのF値とが連動しません。本機のF値を固定して、カメラのF値を変えることにより、補正を行うことができます。
- カメラのISO感度を変更すると、F値が自動的にリセットされますので、F値を再設定してください。



ソニー以外のカメラに使用する場合や、フィルムカメラに使用する場合

(外部調光モードのアドバンス設定により行います。)

ソニー以外のカメラに使用する場合や、フィルムカメラに使用するには、カメラにセットした ISO 感度と同じ値を本機にセットしてください。その他の設定は、前記の「対応するソニーデジタル一眼レフカメラに装着した場合」と同様です。

- マニュアルモードの画面でSetボタン●を2秒間押しすと「マニュアルモードのアドバンス設定」に切り替わります。
- セレクトキー◀▶により、ISO (ISO感度)を選び、続けてセレクトキー◀▶により、カメラにセットされているISO感度と同じ値を選んでください。

外部調光モードのアドバンス設定

マニュアルモードではアドバンス設定を行うことができます。前述したISOの設定以外に、以下のアドバンス機能が利用できます。

サブ発光機能 ————— P.14をご参照ください。

マニュアルズーム設定 ————— P.15をご参照ください。

スレープ発光機能 ————— P.19をご参照ください。



マルチ発光モード

本モードでご使用になれるカメラのモード: [M]

マルチ発光モードは、ストロボを連続発光させるモードです。この機能により一枚の画像に被写体の動きを軌跡として記録することができます。本モードでは、撮影前に発光量、発光間隔、発光回数を設定します。

Frequency: 発光間隔

1秒間あたりの発光回数。1Hzから90Hzまで設定できます。数値が大きいほど短いサイクルで発光します。

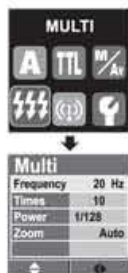
Times: 発光回数

1コマで発光させる回数。1回から90回まで発光できます。数値が大きいほど発光回数が増えます。

Power: 発光量

1/128の光量から1/8まで5つの発光量から選べます。

- カメラの設定モードを[M]にします。
- カメラのシャッタースピードを次ページの表を参考にして、セットしてください。
- Di866 MARK II のメニュー画面からセレクトキー◀▶⇄により左下のアイコンを選択し、Setボタン●を押します。
- マルチ発光モードの設定画面が表示されます。
- セレクトキー◀▶により項目を選び、セレクトキー◀▶により好みの値を設定します。
- 「オン/オフスイッチ」を押すと設定がロックされます。(もう一度押すとロックが解除されます。)



注意

カメラにセットするシャッタースピードは、下記の計算式により算出できます。

$$\text{発光回数} \div \text{発光間隔} = \text{シャッタースピード}$$

【例】:10Hzの発光間隔で20回発光させる場合 → 20÷10=2

シャッタースピードは2秒以上の長さに設定してください。シャッタースピードをバブル設定しても構いません。

マルチ発光の発光回数のガイド表

Power	Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9	10	11	12-14	15-19	20-50	51-90
1/8		14	14	12	10	8	6	5	4	4	4	4	4	4
1/16		30	30	30	20	20	20	10	8	8	8	8	8	8
1/32		60	60	50	40	30	25	20	12	12	12	12	12	12
1/64		90	90	80	70	50	35	25	20	20	20	20	20	20
1/128		90	90	80	70	50	35	25	20	20	20	20	20	20

警告

マルチ発光は10コマ以上の連続発光を行わないようにしてください。連続発光後は、10~15分以上発光を休止してください。発光部が過熱しすぎると、ストロボにダメージを与える場合があります。



ワイヤレスTTLモード

Di866 MARK II は、カメラから離して使用できるワイヤレスリモート方式として「スレーブ (手動設定モード P.19 にて既述)」と「ワイヤレス TTL」の2方式に対応しています。本章ではワイヤレス TTL について解説いたします。

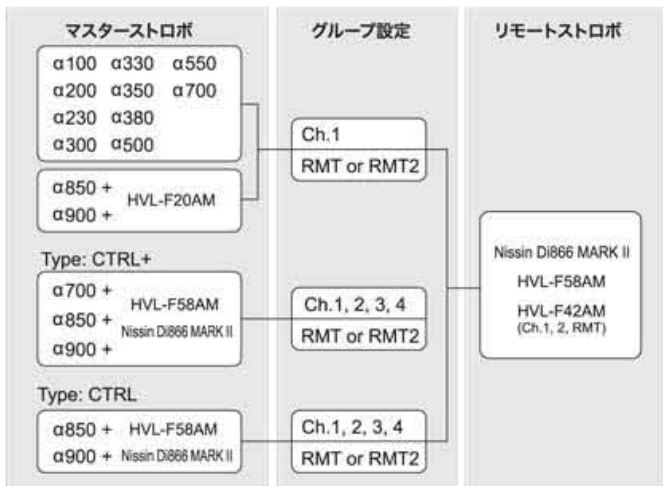
ホットシューに直接、または TTL オフカメラコードでカメラに接続された外付け TTL ストロボを「マスターストロボ」と呼びます。マスターストロボとして1台のストロボが必要です。

カメラから離して使用する外付けストロボは「リモートストロボ」と呼びます。リモートストロボは複数のストロボを設置することができ、2つの異なるタイプ (CTRL、CTRL+) によって制御されます。

マスターストロボとリモートストロボの通信には、混線を防ぐための4つのチャンネルが用意されています。

ワイヤレスTTLの組み合わせについて

組み合わせチャート図



リモートストロボ

リモートストロボの設定を行う前に

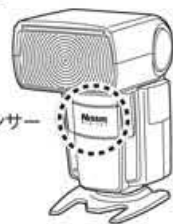
● Di866 MARK II は、初期設定では30分後に電源がオートオフになります。リモートストロボの設定を行う前に、カスタム設定モードよりオートオフ設定を60分後にすることを勧めます。(P.33をご参照ください)

● リモートモードでの照射角の設定はマニュアルズーム設定のみとなります。初期状態は照射角24mmとなっております。好みの照射角に設定する場合は、リモート設定画面においてZoomを選び、セレクトキー<D>により照射角を変更してください。

● リモートストロボを設置するために、付属の三脚ねじ穴付きミニスタンドを使用することができます。ミニスタンドに本機を取り付け、平らな場所に置いたり、三脚に取り付けたりすることができます。

● リモートストロボを設置するにあたり、下記の点についてご注意ください。

1. リモートストロボは、カメラの画角に入らないような場所に設置してください。
2. リモートストロボのワイヤレスセンサーがマスターストロボの発光を受光できる場所に設置してください。
3. ワイヤレスセンサーに直接太陽光が入らないようにご注意ください。センサーが飽和し、マスターストロボの発光を感知しにくくなり、ワイヤレスTTLが正常に機能しません。このような場合は、ワイヤレスセンサーに太陽光が入りにくいように位置を調節すると改善される場合があります。
4. リモートストロボの発光が、カメラのレンズに直接入らないようにしてください。



ワイヤレスセンサー

マスターストロボの設定

マスターストロボで設定できるモードは、TTL モードかまたは M モードです。マスターストロボでは、チャンネル、ズーム位置、マスターストロボ (CTRL) の発光モードおよびグループ (RMT、RMT2) それぞれのリモートストロボの発光モードを設定することができます。

● メニュー画面上で、セレクトキー<D><E>を押して、(P)マークを選びSetボタン(Set)を押します。ワイヤレスTTLモードの画面が表示されますので、セレクトキー<D>により[M]を選び、Setボタン(Set)を押してください。



● マスターの設定画面では、下部の矢印に従って、カーソルや設定値をセットします。(D)カーソルの移動 (E)設定値の変更



● 「Ch」チャンネル設定：チャンネル 1、2、3、4のうちいずれかを選択。

● 「Zoom」ズーム設定：マスターストロボのズーム (照射角) 設定を行いません。AUTO、4mm、28mm、35mm、50mm、70mm、85mm、105mmのうちいずれかを選択。



● 「Mode」モード設定：マスターストロボのモード設定を行いません。TTL またはマニュアル (1/1、1/2、1/4、1/16、1/32、1/64、1/128)のうちいずれかを選択。



● 「Type」タイプ設定：CTRL (単独グループ) または CTRL+ (複数グループ) を選択。

● 「Ratio」パワーレシオ設定：以下の①②③をご参照ください。

① ワイヤレス TTL 発光を行う場合

1. Mode モード設定は、TTL またはマニュアルを選択。
2. Type タイプ設定は、<CTRL>または<CTRL+>を選択。
3. Ratio パワーレシオ設定は、<Off>を選択。



② 光量比制御でワイヤレス TTL 発光を行う場合 単独グループ

1. Mode：モード設定は、TTL またはマニュアルを選択。
2. Type：タイプ設定は、<CTRL>を選択。
3. Ratio：光量比制御設定は、<CTRL/RMT>を選択。
4. Set 欄は、CTRL、RMT それぞれの発光量を選択。



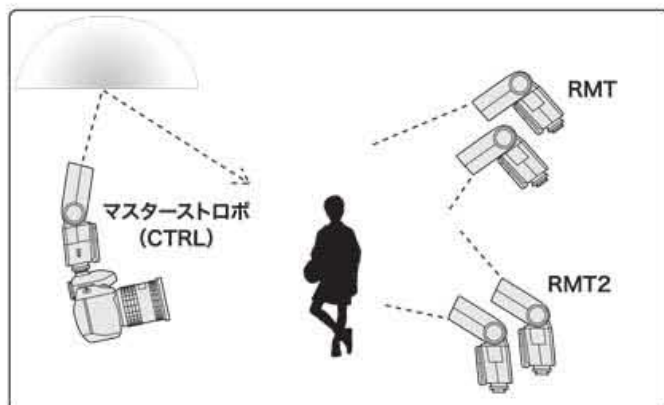
③ 光量比制御でワイヤレス TTL 発光を行う場合 複数グループ

1. Mode：モード設定は、TTL またはマニュアルを選択。
2. Type：タイプ設定は、<CTRL+>を選択。
3. Ratio：光量比制御設定は、<CTRL/RMT/RMT2>を選択。
4. Set 欄は、CTRL、RMT、RMT2 それぞれの発光量を選択。



ワイヤレスTTLの設定例

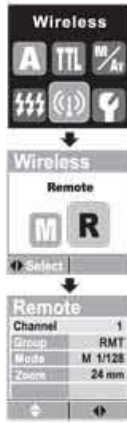
マスターストロボ、リモートストロボのモード、チャンネル、グループなどの設定が正しく行われていることを確認してください。リモートストロボは、マスターストロボから10m以内の場所に設置してください。外光が明るい場所では、リモートストロボが正常に反応しない場合がございますので、ご注意ください。



リモートストロボの設定

チャンネル、グループ、モード、ズーム（照射角）の設定を行ないます。

- 6つのアイコンが表示されるメニュー画面上で、セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ を押し、 (P) マークを選びSetボタン Set を押します。ワイヤレスTTLモードの画面が表示されますので、セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により[R]を選び、Setボタン Set を押します。Di866 MARK II がリモートに設定されたことを表すために、AF補助光が2秒ごとに点滅します。
- マスターの設定画面では、下部の矢印に従って、カーソルや設定値をセットします。
($\triangleleft \triangleright$) カーソルの移動
($\uparrow \downarrow$) 設定値の変更
- 「Channel」チャンネル設定：
チャンネル 1、2、3、4 のうちいずれかを選択。マスターと同じ値にセットします。
- 「Group」グループ設定：
RMTまたはRMT2のいずれかを選択。マスターの設定に従ってセットします。
- 「Mode」モード設定：
リモートストロボのモード設定を行ないます。TTLまたはマニュアル(1/1、1/2、1/4、1/16、1/32、1/64、1/128)のうちいずれかを選択。
- 「Zoom」ズーム設定：
リモートストロボのズーム（照射角）の設定を行ないます。24~105mmのなかで任意のポジションを選択。
- on/off：電源ボタンを押すと、設定がロックできます。（もう一度押すとロックが解除されます。）
- Set：セットボタンを押すと、一旦メニュー画面が表示され、リモート設定画面に戻ります。設定値は保持されています。
- リモートストロボを追加する場合は、上記同じように操作を行ってください。



28



カスタム設定モード

Di866 MARK II は、カスタム設定モードにより、好みの設定に変更できます。

- メニュー画面の6つのアイコンから、セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により (P) カスタム設定モードを選び、Setボタン Set を押してください。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により項目を選び、セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により設定値を選択することができます。
- カスタム設定モードでは、7つの項目を設定することができます。



My TTL マイTTL設定

■TTL調光レベルのカスタマイズ

Di866 MARK II のTTL調光レベルは、標準的な露出バランスが得られるように適正に調整されたレベルになっていますが、ニッシンオリジナルのマイTTL設定により、ユーザー自身が本機のTTL調光レベルを好みのレベルに微調整することもできます。設定範囲は、-3.0EV~+3.0EVまでで、1/3EVステップごとに補正が可能です。

Modeling モデリング発光

■照明効果を事前に確認することができます。

モデリング機能をOnにすると、テストボタンを押すことにより、小さなパルス発光による連続光を発光し、被写体への照明効果を事前に確認することができます。

Display ディスプレイ設定

■液晶画面の表示をオフにするエコモードです。

電力消費を抑えるために、液晶画面の表示を消すことができます。ディスプレイ設定をOffにすると、最後に操作を行ってから8秒後にディスプレイがOffになります。液晶画面は、カメラのシャッターを押しても復帰しません。液晶画面を復帰させるには、Di866 MARK II のボタンのどれかを押してください。

Rotate 液晶画面回転設定

■液晶画面の回転機能をOFFにすることができます。

29

ft/meter フィート / メーター切替

■距離表示をフィートまたはメーターに切り替えることができます。

Auto Off オートオフ設定

■電源のオートオフの設定時間を変更することができます。選べる値は、10min. 15min. 30min. (初期設定) 45min. 60min. またはOffとなります。

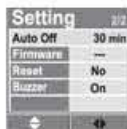
Firmware ファームウェア

■最新のファームウェアにアップデートするための機能です。現在のファームウェアのバージョンが表示されますので、アップデートが必要な場合は、 \triangleright ボタンを押します。それからUSBケーブルでパソコンに接続し、セットボタンを押します。詳しくはニッシンホームページをご覧ください。

Reset リセット機能

■各モードで行ったすべての設定がリセットされ、工場出荷時の状態に戻ります。

設定をリセットする場合は、セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ を押し、2ページ目のResetを選び、セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ でYesを選択しSetボタン Set を押します。すべての設定値がリセットされ、工場出荷時の値に戻ります



Buzzer ブザー音

■ワイヤレスTTLモードで利用できます。リモートストロボがマスターストロボの発光に同調したことをピープ音で確認できます。

● カスタム設定モードで行った設定は、すべてのモードに適用され、また、電源をオフにしても設定は記憶されます。

30

カメラによってセットされる機能

以下の機能は、カメラ側でセットされる機能です。



後幕シンクロ機能

後幕シンクロ機能はマルチ発光モード以外のすべてのモードでお使いいただけます。

カメラを後幕シンクロに設定すると、シャッター幕が閉じる直前にストロボ発光を行うことができます。これにより、動いている被写体の軌跡を、自然に表現することができます。カメラの設定を後幕シンクロにすると、Di866 MARK II の液晶画面上に図のようなマークが表示されます。カメラ側の設定方法については、カメラの取扱説明書をご参照ください。



オートフラッシュブラケットティング

Di866 MARK II は、A(フルオート)またはTTLモードの時、オートブラケットティング機能をサポートしています。本機能をカメラ側で設定することにより、連続したコマをあらかじめ設定した補正間隔によりブラケット撮影を行うことができます。撮影コマ数や補正間隔は、カメラで設定します。カメラ側の設定方法については、カメラの取扱説明書をご参照ください。



スローシンクロ機能

Di866 MARK II のすべてのモードで利用可能なモードです。被写体と背景の露出を両方とも最適露出で撮影するために、スローシャッターで本機を発光させることができます。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。



31

その他の特徴

AF補助光

Di866 MARK II は、低コントラストの被写体や、暗所などで撮影を行うとき、自動的にオートフォーカス補助光を被写体に照射しフォーカスしやすくします。

キャッチライトパネル

バウンス撮影時、近距離でキャッチライトパネルを使用すると、被写体に対する前面からの光を補い、顔の表情などを明るくすることができます。

- 被写体が近距離(約2m以内)にあるとき、メイン発光部を上方に回転させ、図のように内蔵キャッチパネルを引き出します。
- キャッチライトパネルによる反射が被写体にソフトな光を照射します。
赤ちゃんやペットなどを撮影する時に便利です。



ワイドパネル

ワイドパネルを使用する時は、内蔵ワイドパネルを図のように引き出して、発光部前面に被せます。ワイドパネルが発光を拡散し、最大広角18mmまでの焦点距離をカバーできます。



32

バウンス

メイン発光部を回転させて発光させることをバウンス発光といいます。屋内で、天井や壁などにストロボ光を反射させてバウンスを行うことにより、被写体間接光が照射されナチュラルな効果を与えることができます。

① バウンス撮影時のご注意

天井や壁までの距離が離れている時は、発光量が不足して十分な効果が得られない場合があります。また、天井や壁が白以外の色の場合は、反射光が着色され、被写体が色かぶりを起こす場合があります。バウンス発光は、光が減衰しますので、十分な効果が得られない場合は、カメラのISO感度を上げて撮影を行ってください。



33

外部電源用端子



外部電源を使用すると、発光回数を増やし、発光間隔を短くすることができます。外部電源を使用する場合は、Di866MARK II 本体の電池も使用しますので、取り外さないようにしてください。

外部電源	発光回数(フル発光時)	発光間隔
Nissin Power Pack PRO-300	約600回	約0.1~0.7秒
Sony製 FA-EB1AM	約200回	約2.5秒

① 連続発光時のご注意

Di866 MARK II で連続発光を行う場合は、過熱防止のため、20回を超えて連続発光を行わないようにご注意ください。発光部が過熱して、部品が損傷したり、発熱箇所に触れて火傷をししたりする場合があります。連続発光を行った後は、Di866 MARK II の温度が十分下がるまで、自然冷却を行ってください。(約10~15分かかります)

● 過熱防止機能について

Di866 MARK II は過熱防止機能を備えています。連続使用により本体の温度が上昇しすぎると、過熱防止機能が働き、安全のため発光停止操作ができなくなります。液晶画面には図のように「OVERHEAT」という文字が表示されます。本体の温度が十分に下がると再び操作および発光が可能になります。



ファームウェアアップデート用USB端子

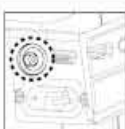


本機は、ファームウェアのアップデート用USB端子を備えています。アップデートに関する情報は、ニッシンジャパンのホームページ <http://www.nissin-japan.com> でご覧いただけます。



シンクロ端子

Di866 MARK II はシンクロコードによる接続ができるシンクロ端子をご用意しています。市販のシンクロコードによりカメラのシンクロターミナルと接続し、本機と同調させることができます。



34

主な仕様

使用可能なカメラ:	ソニー製デジタル一眼レフカメラおよびホットシュー付きデジタルコンパクトカメラ(対応カメラについてはニッシンWEBをご確認ください)
ガイドナンバー:	照射角105mmのとき60 (ISO100, max.) 照射角35mmのとき40 (ISO100) (P.38のガイドナンバー表をご参照ください)
最高出力:	63Ws (フル発光時)
カバーする焦点距離(照射角):	24~105mm以上(自動ズーム) 18mmワイドパネル内蔵
電源:	単3形4本使用(電池別売) ※ニッケル水素電池(エネループ)、アルカリ乾電池、リチウム乾電池など
発光間隔:	約0.1~5.5秒(ニッケル水素電池、アルカリ乾電池)
充電表示:	緑色パイロットランプ点灯
発光回数:	約150~1,500回(アルカリ乾電池)
閃光時間:	マニュアルモード時 1/300秒(FULL)~1/22000秒(1/128) TTLモード時 1/300秒~1/30000秒
節電機能:	【オートパワー-OFF】無操作状態から約30分後に電源OFF(初期設定) ※オートパワー-OFF設定値は、OFF、10分、15分、30分、45分、60分 【ディスプレイ設定】OFF設定で、スタンバイモード時に液晶非表示。
色温度:	約5,600K

調光方式およびワイヤレス機能	モード:	【フルオート】 ADI調光 【TTL】 ADI調光 ※ストロボ調光補正、マニュアルZOOM、サブ発光機能可以使用。 【外部調光】 F1.4~16(ISO100)、1/3EVステップ ※対応するカメラでセットしたISO感度が自動連動します。カメラでセットした絞りは自動連動しませんので、ストロボでセットした絞りに対し、カメラの絞りを覚えて露出の補正を行うことができます。 ※マニュアルZOOM、サブ発光機能可以使用。 【マニュアル】 発光量FULL~1/128、1/3EVステップ ※マニュアルZOOM、サブ発光機能可以使用。 【マルチ発光】 発光間隔1~90Hz、発光回数1~90光量、発光量1/8~1/128
	ワイヤレス機能:	【ワイヤレスTTL(マスター/リモート)】 チャンネル数 4 グループ制御: RMT、RMT2 モード: TTL/ マニュアル(FULL~1/128、1EVステップ)
	【スレープ】	プリ発光対応デジタルスレープ(手動設定モード時) ※バウンス時にサブ発光が使用できます。 アナログスレープ(手動設定モード時) ※バウンス時にサブ発光が使用できます。
	調光補正機能:	-3.0~+3.0EV、1/3EVステップ(TTL調光モードおよびワイヤレスTTLモード時)
	マイTTL設定:	-3.0~+3.0、1/3EVステップ

35

その他の機能	サブ発光部:	ガイドナンバー12、マニュアル光量設定(1/1、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128)
	後幕シンクロ:	※サブ発光部は、メイン発光部がバウンスのときのみ発光可能。
	ハイスピードシンクロ:	
	AF補助光:	有効距離 0.7~10m
表示部・操作部	背面液晶表示部:	自動回転機能付きカラー液晶(自動回転OFF設定可)
	電源ボタン:	プッシュボタン式(兼操作ロックボタン)
	操作ボタン:	十字セレクトボタン
	バウンス機構:	上方90°左90°右180°(ロックなし)
	電池収納方式:	バッテリーマガジン方式(当社Di466と共通)
取付足部	端子電圧:	約3.8V ロックピンによる固定
	外部端子	ファームウェアアップデート端子(USB) 外部電源用端子: 使用できる外部電源…ニッシンパワーバックプロ300、ソニー製外部電源 シンクロ端子
付属品	ソフトケース、三脚ねじ穴付きスタンド	
寸法表示	大きさ(高さx幅x奥行):	約134x74x110mm
	質量(重さ):	約380g(電池除く)

※製品の外観・仕様・価格などは都合により予告なく変更する場合がございます。
※記載データは、当社基準によります。

オプション

- **バッテリーマガジン BM-01**
交換用バッテリーマガジン
希望小売価格**2,000円**



36

ガイドナンバーと閃光時間について

マニュアルモード時のガイドナンバー(ISO100)

発光レベル

ズーム位置	Full	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
24mm	31	22	16	11	8	5.5	4	2.5
28mm	36	25	18	12.5	9	6.5	4.5	3
35mm	40	28	20	14	10	7	5	3.5
50mm	46	32	23	16	11.5	8	5.5	4
70mm	52	36	26	18	13	9	6.5	4.5
85mm	54	38	27	19	13.5	9.5	7	5
105mm	60	42	30	21	15	10.5	7.5	5.5
閃光時間(秒)	1/600	1/900	1/1500	1/3200	1/5000	1/9000	1/15000	1/22000

トラブルシューティング

ストロボがチャージしない。

- 電池の向きを確かめて、
▶▶▶ 逆向きになっている場合は正しく挿入してください。
- 電池が消耗していないか確認して、
▶▶▶ 消耗している場合は、新しい電池と交換してください。

ストロボが発光しない。

- ストロボがカメラにしっかり固定されているかどうか確認してください。
▶▶▶ しっかり固定しなかった場合は、奥まで差し込んで固定してください。
- ホットシューの接点に汚れがないか確認してください。
▶▶▶ 汚れている場合は、乾いた布で拭いてください。
- オートオフ機能により電源が切れている場合があります。
▶▶▶ その場合は、電源を再度入れ直してください。

写真が露出オーバーまたはアンダーになる。

- 被写体のそばに反射物などがあって、正常に調光されない場合があります。
▶▶▶ その場合は、FVロック機能をご使用ください。

37